

入試改革

昨年12月に文部科学省が入試制度について重要な発表をしました。今の中学校1年生が受ける大学入試から以下のような新しい方式に変えるというものです。

- ①大学入試センター試験を廃止して大学入学希望者学力評価テスト（仮称）に移行する。新テストは思考力・判断力・表現力等の能力を中心に評価する。教科型に加え、合教科・科目型、総合型の問題を組み合わせ出題し、記述式問題も取り入れる。
- ②各大学における一般・推薦・AO試験の区分を廃止する。各大学はアドミッションポリシー（受け入れ方針）を明確にしてそれに基づき個別試験を実施する。小論文・プレゼンテーション・集団討論・面接・推薦書・調査書・資格試験等を評価し、大学入学希望者学力評価テストとの総合評価で合否を判定する。
- ③知識・技能の習得を評価するために高等学校基礎学力テスト（仮称）を実施する。高2～3年で必修科目の原則多肢選択方式テストを実施、結果を調査書に反映する。

なお、文部科学省は改革に乗り出した背景には次のような問題があるとしています。一つは現行の入試が知識偏重で、「学力の三要素」（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）に基づく「確かな学力」の育成が進まないこと。二つ目は「大学全入」時代に入って大学生の低学力問題や主体性の欠如に象徴される大学教育の質の低下が問題となっていること。そして三つ目に日本の大学がグローバル化の進展に十分に対応していないという問題です。

さて、こうした改革は現役の高校生には影響があるのでしょうか。多分自分には関係ないことだと思った人が多いと思いますが、果たしてそう言い切れるでしょうか。例えば、大学は6年後のために教育や入試の改革を準備しなければなりません。6年後に突然制度を変更するのでは大きな混乱が生じてしまうからです。だから、各大学はアドミッションポリシーでその特徴を今より明確に打ち出し大学個別の入試や教育の在り方を今から徐々に変えていくことが予測されます。AO・推薦入試や二次試験はそれらが反映されやすい入試です。そう考えると、現役の高校生も上記した学力の三要素を意識した学習をして入試や入学後の学習に備えておく必要があることがわかります。もちろん、センター試験が依然重要な位置を占めるので今まで通りの学習を継続すればよいですが、単純な暗記やドリルだけに頼らない学習は学力の幅を広げ知識や技能の向上にもつながるはずです。これを機に各自の学習方法の見直しを試みてはどうでしょう。（文責：今井雅）

1年の窓

『高校での学習スタイル3つのポイント』

入学して1カ月が過ぎました。3年後の大学生活を実現するため次の3つを心掛けてみましょう。

- ①『毎日の授業に集中する』・・・授業で学ぶ内容はセンター試験を突破するための基礎です。範囲はとても広いので予習・復習を毎日行い、授業を確実に理解することが重要です。
- ②『家庭学習の習慣化』・・・予習、復習を欠かさないためには生活リズムを整え、決められた時間の家庭学習を確保すること。少しの空き時間に単語を覚えるなど時間の使い方も工夫しましょう。
- ③『進路目標を持つ』・・・どの大学で学びたいか、学んだことをどのように生かしたいかなどの進路目標を持つことで、日々の授業や家庭学習のやる気が高まってきます。早く目標を明確化しましょう。（文責：西崎）

2年の窓

2年生が始まって1ヶ月。昨年と比較して学校生活、特に学習面の変化はあったでしょうか？2年生からは理科・地歴科目が細分化され、本格的な学習が始まりました。それに伴い小テストの回数・課題の量も増え、これまでの学習方法ではカバーしきれない所が出て来てしまった人も居るのではないかと思います。

学年が変わったこのタイミングを利用して、今までの学習方法も変えてみませんか？朝少し早く起きてみる、通学の時間を利用する、帰る前に進路学習室を利用してみる…家庭学習時間をしっかり確保することも勿論大切ですが、こうした少しの時間の積み重ねも大切です。大きな変化はちょっと難しいな…という人、まずは小さな変化から始めてみませんか？（文責：堀内）

3年の窓 割れ窓理論(ブロークン ウィンドウ)と環境について

突然ですが、「割れ窓理論」という言葉を知っていますか？一度、授業中にお話ししたクラスもあるので、聞いたことはあるかと思います。割れ窓理論とは、「建物の窓が壊れているのを放置すると、誰も注意を払っていないという象徴になり、やがて他の窓もまもなく全て壊される」(Wikipediaより抜粋)との考え方のことです。学校に置き換えると、クラスの床にゴミが落ちている、ガムが捨ててあるから別に捨ててもいいやという気分になり、結果として床にゴミを落としても平気な感覚になり、精神が荒んでしまうということになると思います。そうならないためにも、われわれ教員も生徒も掃除を行い、きれいに保全しているのです。ちなみに、ディズニーリゾートもこの理論に則り、夜中に修繕活動をしているそうです。陰で努力をしているのです。つまり、環境の保全、維持には努力が必要なのです！

さて、前置きが長くなりましたが、受験に対する環境はどうですか？勉強する環境がないとたまに聞きます。学校、家庭、塾など様々な環境があると思いますが、その環境をよりよいものにするためには、各自の努力も必要なのです。一人ひとりから環境を維持、または創造していくことで今まであった環境がより良いものとなり、みなさんの力となるでしょう！受験生としての環境を作るのも壊すのもみなさん次第です。3学年が良い環境の中で受験勉強していることを願います。

（文責：波勢）

○文系の窓○

新設学部について

年間どれぐらいの学部が新設（増設、併設）されていると思いますか？平成27年度はおよそ80の大学で行われそうです。（国の認可が下りない場合もあるので確定数ではありません。）結構な数だと私は思います。また、募集停止となる学部もあり、数の調査ができず不明でした。要するに常にアンテナを張り、大学の情報を得ることが大事です。自分の志望する大学、学部がない！なんてことがあると悲劇です。逆に、新設学部、学科によって自分の研究したいことが見つかる可能性もありますよね。

さて、近隣の大学で新設された学部、学科を紹介します。

愛知 名古屋外国語大学 外国語学部 世界教養学科
日本医療環境大学 看護学部
日本福祉大学 看護学部
名古屋学院大学 現代社会学部 / 国際文化学部

岐阜 岐阜聖徳学園大学 看護学部 など様々

看護職の流行のせいか、看護学部の新設が全国的にも増加傾向です。東海圏は私立大学のみですが、全国では国公立大学でも新設、併設の大学はもちろんあります。信州の数学科や高知工科大学の経済マネジメントなどです。再度、大学の最新情報に目を向けてみる必要ありです！
(文責 波勢)

○理系の窓○

〈理系大学研究室から考える進路〉

理系の大学では、4年生もしくは3年生後期から学生が教授の研究に参加（お手伝い）し、卒業研究を行います。大学で学びたいことが決まっている人は、大学選びを研究室選びから始めてみることをお勧めします。

さて、各大学の理系学部では地域の企業と共同で研究をしています。そのため、愛知ではトヨタに関係した研究が、静岡ではヤマハに関係した研究が多く行われています。例えば、トヨタは自動運転やロボットの精密技術を最終的に宇宙開発に向けて活かすための研究をしています。また、三菱の国産ジェット（MRJ）の開発が一段落していることもあり、航空宇宙工学に関係した学科では、宇宙に力を入れ始めています。このような流れもあり、東海地方では今後、この宇宙に関連した研究が増えていくことが予想されます。このように、企業からの視点で大学やその所在地を選んでも興味深いのではないかと思います。

ここまでは、大学の研究室に関係した話をしましたが、その先には就職が待っています。先日、名古屋工業大学の先生と話す機会があり、大学生が就職した後、会社の中でどのような仕事をしているか尋ねました。すると、名工大や名大を卒業した理系の学生でも大手企業を中心に学部卒業では営業に回されて、開発部門に行くことは非常に難しいという話をされました。だから、大学院へ進む必要があるということです。大学院は同じ大学から進学しやすいという面もあります。大学院から大学を決めることも、これからあたり前の時代になるのではないかと思います。
(文責：竹腰)

☑総合学習の扉☑

2年生の月曜7限に設定されているのが「総合的な学習の時間」略して総合学習です。通常の授業とは大きく異なる方法・内容を実施していくので楽しみにして下さい。今回はその予告をしていきます。

まずは、授業の形式です。いま皆さんが受けている毎日の授業は、いわゆる講義形式で、先生1人が話し、それを多くの生徒が聞くという授業形式です。限られた時間で多くの知識を得ることができる点が長所ですが、教員からの一方通行になりがちです。それに対し、総合学習の時間に限って実施していくのが、ゼミナール(ゼミ学習)という形式です。これは、少人数で行われる対話型、課題追求型の授業のことで、大学の3、4年次の専門課程で実施されてきた授業形式です。また、最近では大学入学後すぐに一般教養ゼミや入門ゼミとして講義形式とともに実施されていることもあります。総合学習は、この少人数でのゼミ形式で実施するため、みなさん自身が本当に興味をもつ学問や分野について取り組むことができます。

また、学習内容ですが、1人1人が興味関心に沿ったテーマを設定し研究をしていきます。一昨年度の例を挙げると、「イギリス英語とアメリカ英語の違いはなぜ生まれたのか」「オリンピックの経済効果はどれほどか」「バリアフリーとユニバーサルデザインをいかに取り入れるか」「ホンネと建前 ナースの退職理由」と、かなりバラエティーに富んでいます。興味のあることをじっくりと調べゼミの中で発表をするという、学んだ知識を自分から発信できる貴重な機会です。皆さんはどんなテーマを設定して研究を進めていきますか。これからがとても楽しみです。
(文責 谷)

○Book Review○

『「出生前診断」を迷うあなたへ』(大野明子、講談社+α文庫、2013)

2013年4月より日本でも「新型出生前診断」が導入され話題になりました。従来の羊水検査などのように流産のリスクがなく、母親の血液検査だけでダウン症などの検査が容易にできるということで、多くの人々が受診したといわれています。もちろん検査機関、対象者を限定しカウンセリングを必須とするなど導入は慎重に進められました。また確定診断をするためには従来の検査を受ける必要があります。しかしある調査では陽性と診断されさらに確定と診断された事例のうち約95%が中絶に至ったといわれています。

著者は東京で活躍する産婦人科医。自然なお産と母乳による子育てを推進して、出生前診断導入による中絶の増加に警鐘を鳴らしています。著者が支援してきたダウン症の子どもと母親との交流、臨床遺伝子医との対談や母親たちとの座談会なども収録されており、数多くの事例を通して学ぶことができます。出生前診断やダウン症などに関する基礎知識を解説してあるので予備知識がない人でもわかりやすい本です。

子どもたちの愛くるしい写真を見ながら、「子育てとは」、「命とは」、「幸福とは」、「ノーマライゼーションとは」、「普通とは」などを問い直すことができます。そして自分の日常生活の中にある「常識」と偏見を考えさせられることにもなると思います。こうしたことに興味のない人も一度手に取ってほしい一冊です。
(文責：今井雅)

